

---

■ さろん | Mail News 2017/9/15 | #99 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

---

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

---

---

=====Vol.99 2017年9月15日(金)=====

さ | ろ | ん |

— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |

— | — | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

---

INDEX

| 【お知らせ】(9/22) ゆる系喫茶ルーム「(当日募集)」

| 【1】コラム/エッセイ

|     ◇『コミュニケーションで話が通じないと嘆く前に ~断簡』

|     ◇『早苗ちゃん』

| 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています

| 【2】コトバをハーバリウムする

| 【3】さろんアーカイブの遊歩道

| 編集後記

---

CONTENTS

---

---

【お知らせ】

(9/22) ゆる系喫茶ルーム

テーマ「(当日募集)」

---

通称『ゆるカフェ』。ゆるやかに営業中です。

今月のテーマは当日募集します。おしゃべりしたいテーマをぜひ持ってきてくださいね。

それもいいね、そっちも面白そうだね、とウロウロしながら、「いま話したいこと」をほりさげてみましょう。

9月22日(金) 19:30-21:30 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

9月22日(金) 19:30より

渋谷駅 or 代々木駅 (申込者にご案内)

参加費 100円 (別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: salontetsugaku@gmail.com

(幹事: せりざわ)

---

### 【1】コラム/エッセイ

---

▽【コミュニケーションで話が通じないと嘆く前に ~断簡】 一生

▽【早苗ちゃん】 しまと ねりこ

---

▽【コミュニケーションで話が通じないと嘆く前に ~断簡】 一生

7月の閉会中審査的一幕。小野寺五典氏(自民党)からの「政治の不当な介入があつたり公正な行政がねじ曲げられたりしたとを感じるか」という決定過程の公正さへの質問に、八田達夫氏(国家戦略特区ワーキンググループ座長)は「不公平な行政が正されたと考えている。獣医学部の新設制限は日本全体の成長を阻害している」と新設の是非で応じた\*1。

ベンが「これはリンゴですか?」と質問するとルーシーは「はい、それはリンゴです」と応える。ディックが「これは何ですか?」と質問すればナオミは「それはえんぴつです」と応える。中学校英語教科書の対話に当時は「こんな対話は絶対しない」と呆れていた。

読者諸氏は国会審議における意味のずれに気づけたであろうか。コミュニケーション能力を考えると、意外にも中学校教科書的な対話法が基本と気付く。今の社会でこの対話法が根付き、実践されているか。対話法の実践に哲学対話は向いている。国会議員は元より多くの人達に薦めたい。今月で弊会での哲学対話も満7年を迎える。

\*1: 2017年8月1日朝日新聞;

寄稿 野矢茂樹東大教授「言葉の意味 ずらす今の政治 批判逃れの『見事な技術』」

---

▽【早苗ちゃん】      しまと ねりこ

幼い頃、たった3つ上の早苗ちゃんがとても大人びて見えた。私が知らない事を何でも知っていて私ができない事を何でもできるような、憧れのお姉さんだった。

近所に住む早苗ちゃんは16になると、隣町の公立高校に進んだ。その夜間クラスに入学すると同時にアルバイトを見つけて、昼間は働いていた。高校生活になじむ間もなく仕事を始めたのには事情がある。それは父親がつくった借金だ。早苗ちゃんの父は揉め事の多い人だった。家の中には各種トラブルがひとつとおり揃っていた。耐えきれなくなった妻が別れを申し出ると、借金の肩代わりを条件に離婚に応じる、という答えが返ってきた。その理不尽な要求がなぜか受け入れられ、離婚する代わりに妻が夫の借金を返すという事で話がついてしまったらしい。

でも、早苗ちゃんのお母さんだけでは返済が大変だった。いつも髪をカーラーで巻いて桃色の頬紅をさし、語尾を伸ばしてあどけない調子で話をする彼女は、どこか頼りなくて可愛らしい人。(私は彼女を見かけるたびに、甘いばかりで歯ごたえのないマシュマロを思い出した。)経済力以前に、そもそも気概というものをあまり持ち合わせていないようだった。それに早苗ちゃんの弟がまだ小さかったから、長い時間は働けなかった。おのずと、早苗ちゃんとお母さんが共同戦線を張ることになった。高校生の女の子は、その肩にすでに借金を背負っていた。

仕事ははじめからうまく行ったわけではない。最初の仕事先は商店街にある古いお寿司屋さんで、店内ではベテラン従業員の厳しい目がいつも光っていた。新入りの早苗ちゃんはたくさん注意を受けた。先輩店員たちは、定時制高校に通う彼女を不良だと思い込んだのかもしれない。それとも向こう見ずな若い娘を心配するあまり、ついお説教が多くなっただけかもしれない。でも、早苗ちゃんには知りようもなかった。小言の多さに自信をなくし仕事の要領がつかめないうまま、叱られないように気を張りつめて、よけいに失敗した。積み重ねた皿はいつもカタカタと揺れ、隙あらば早苗ちゃんの手を離れて床に落ちていったし、湯飲み茶碗が気まぐれに転がってはテーブルの上にお茶がこぼれた。ある時、早苗ちゃんは「おばちゃんたちがガミガミ言うから、すっごく怖いんだ」と私に呟いて、俯いたまま唇を噛みしめた。それはほんとうに悔しい時にみせる、彼女の癖だった。その後しばらく持ちこたえたけれど、やがてお腹がしくしく痛むようになった。胃潰瘍だった。お寿司屋さんを辞め、べつの仕事を探した。次に見つけたのは、駅前にできたばかりの小さな喫茶店。幸運にも、そこには「ガミガミ女」はいなかった！

早苗ちゃんは裏表がなく正直だったから、新しい店では目をかけられた。ここでがんばる、と心を決めた早苗ちゃんも、それに応えてけんめいに働いた。毎日、お店に出た。コーヒーをはこび、空いたお皿を片づけた。メニューと値段をぜんぶ、そらで言えるように覚えた。レシピを習ってチョコレートケーキを作りはじめた。甘さを控えてチョコの風味を生かしたそのケーキは、なかなかの評判だった。夜は学校に行った。勉強は好きじゃなかったし、よくわからなかった。授業中は居眠りしたり、小声で友だちとおしゃべりした。マフラーについた毛玉を摘んで過ごすこともあった。ひんぱんに新しいものを買う余裕はなかったけれど、古いニットでも毛玉をていねいに取り除けば

こざっぱりと見えると、ちゃんと知っていたから。その行いに目をとめた級友に、襟巻きにちなんだ滑稽なあだ名をつけられたけれど、そんなことは笑ってやり過ごした。毎日が当たり前のように過ぎていった。

幼い頃の私が抱いていた早苗ちゃんへの幻想は、成長するにつれ消えていった。現実の彼女は、ひるんだり僻んだりしながら困難を受けとめようとする、平凡なひとりの女の子に過ぎなかった。

やがて高校を卒業した早苗ちゃんは勤務時間を増やし、フルタイムのウェイトレスとしてそのまま働きはじめた。まるで「順路はこちら」と矢印が描かれた標識に従うように何の疑問もなくその進路を選んだ彼女を、周囲の人間も何の疑問もなく眺めていた。物言いのひとつも、つかなかった。早苗ちゃんは成績が良くなかった。学費を出す親はいなかった。女の子だった。すべての条件が、彼女に高卒以上の学歴なんて必要ないと告げていた。当人も勉強が好きではなかったし、忙しく立ち働くのが性に合っていた。だから、高校で学業を終えるという選択もすべて本人が望んだことのようにさえ、見えた。火種の多い家庭に育ち 10 代から家族内の問題解決に明け暮れた彼女にとって、勉学に喜びを見出したり、自分自身のための夢や目標を思い描くことがどれほど難しいか、思いを巡らせる人さえひとりもいなかった。数年後、結婚した早苗ちゃんは子どもを産んだ。初産を終えた彼女はやつれていたけれど、しゃんとして見えた。「大変だったね、難産で。すごく時間もかかったし。」私は声をかけた。「うん、すごく大変だった。予定日を過ぎてもぜんぜん生まれなくて。…でもおかげで、いかにも私の息子らしい誕生日になったと思わない？」というのが返事だった。出産日は5月1日、メーデーだった。…うん、と頷く私に早苗ちゃんは、「ね、そうでしょ。だって私、ずっと働いてきたんだもの。」そう言って、すこし微笑んだ。捨て鉢と自己憐憫、覚悟と自負、そのすべてを滲ませたような静かな声で。

おとなになった私は、哲学カフェや読書会というものに出かけるようになった。他者と対話し、共に学びたいと望む人たちが集う場所だ。もちろん、そこで話されることのすべてを私が理解できるわけではない。ある時、「コウトウユウミン」という言葉を耳にした。初めて聞く単語だったけれど、話の流れからそれがディレクタントと同じような意味だとすぐにわかった。それなら、漢字では高等遊民と書くに違いないと思いあたって、思わず私は目をふせた。

いったい、なにが高等なんだろう。それがわからなくて、俯いたまま唇を噛みしめた。

---

## 【ご案内】

---

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

---

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ-テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

---

## 【2】

コトバをハーバリウムする #23 (た)

---

本のコトバから

巣穴をもつことの幸せに甘えていた。

巣穴の傷つきやすさは当主を傷つきやすくして、その傷はわが身の傷のように痛むのだ。

——カフカ(著) 池内紀(訳) 『巣穴-カフカ寓話集』

歌のコトバから

I've forgotten who I am.

Snakes uncoiling.

Pressed up to the glass.

All the things that you shouldn't ask.

僕は僕が誰だか忘れてしまった

ヘビがほどいている

ガラスを押し上げた

きみが聞いちゃいけないぜんぶのこと

——Atoms For Peace 『Reverse Running』

---

### 【3】

---

さろんアーカイブの遊歩道 #17 (セ)

---

カテゴリ：【あるばか学校】 1時限目

テーマ： 「アートーク！」

開催日： 2017年8月5日

<http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>

アートスクールは出たけれどいまはそれで食べてるわけじゃない。でもアートをつくることは生活の一部になっている。プロではないけどじぶんなりに創作と向き合っている。鶴見俊輔は非玄人が非玄人に向けて作る芸術のことを”限界芸術”と呼びました。福住廉はそういう人たちのことを”欲張りなハンパモン”と呼んでいます。念のため付け足すと、両者はどちらも肯定的な文脈で捉えています。アート（芸術）はなによりもまず精神的な営みであり、ありのままの精神性が生の裸形に近い形で現れるのが限界芸術だといえます。

大多数のひとにとって、美術館に出かけたりギャラリーで作品を購入したりするときは「勉強しよう」「理解を深めよう」という思いは少ないのではないのでしょうか。それよりは「訴えかけてくるもの、想像力をかきたてるモノに出会いたい」という楽しみの方が大きい気がします。

じぶんに刺さる作品がどういうものなのか（＝自分を深める）ということと、それがどういう作品だったのか（＝作品理解を深める）を有機的に、でもはじめての外国旅行のようなおぼつかなさで語り合ってみる。そういう白紙の時間がなによりも求められている気がしました。この辺りのことについてもう少し考察を続けてみたいとおもいます。

---

### 編集後記

---

メールニュース第99号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

いよいよ明日はさろん7周年記念例会＋記念懇親会の開催日となっています。

おかげさまで初参加の方からも大勢お申込みをいただき、充実した時間になればいいなと思っています。7周年という節目、8年目のスタートをみなさんと一緒に迎えられるのを楽しみにしています。

そんな連休初日ですが、あいにく台風が来ているみたいですね。関東はちょうどこの3連休に直撃（オーノー！）のようですから外出の際は気をつけましょう。

ここでお知らせを。

来月10月21日ー22日に開催される第3回哲学プラクティス連絡会、ことしのさろんは、10/22（日）にブース出展を行います。ぜひ遊びにいらしてくださいね♪

<http://philosophicalpractice.jp/information/1022rikkyo/>

あるばか学校も次回プログラムを複数検討中のようです。10月か、遅くとも11月にはイベントをお届けできるようあるばか達かもふもふ草を食べています。

それではまた次号でお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/9/15

⇒次号 (10月1日発行予定)

---

さろん Mail News 第99号 / 2017年9月15日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- 
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
  - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
  - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
  - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
  - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
    - 「さろん哲学」Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
    - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
    - 「さろん工房」Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
    - 「あるばか学校」blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."

---